

「藤岡家住宅」

令和7年10月1日(水)～12月20日(土)の展示

藤岡家所蔵資料に見る

幕末日本外交の風景

新編 幕末

嘉永6年(1853)

M・ペリー来航後、対外関係のうえか

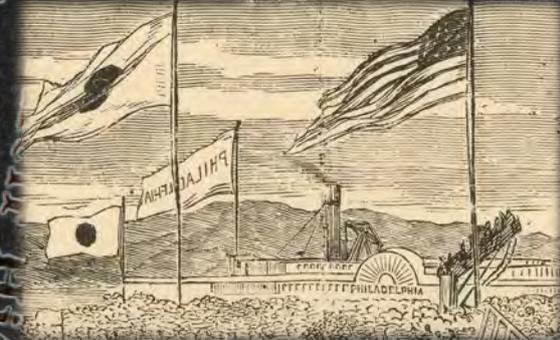
ら国旗の制定が不可避となり

万延元年(1860年)5月14日

第一回遣米使節団では

外交で初めて

日の丸の旗が掲げられた



日本人使節とワシントンで掲げられた外交上初めての日の丸国旗



ペリリ提督・黒船(錦絵)

NPO 法人うちのの館 (やかた)
〒637-0016 奈良県五條市近内町 526
0747 (22) 4013

月曜休館 月曜祝日の時は開館 翌日休館 9時～16時
高校生以上300円 小中学生200円 20名以上2割引





『万延元年即ち千八百六十年の第一回遣米日本使節圖繪』昭和5年(1930)10月熊本市九州新聞発行 フランクスリースイラストレイテッドニューズペーパーの復元

「藤岡家所蔵資料から見る 幕末の遣米使節団」

令和7年 10月1日(水)～12月20日(土)

「藤岡家住宅」

〒637-0016 奈良県五條市近内町 526 番地

tel&fax 0747(22)4013 info@uchinono-yakata.com

<http://www.uchinono-yakata.com>

月曜休館(月曜祝日のときは翌日休館) 9時～16時

高校生以上 300 小中学生 200 円 20名以上2割引



『秘録 維新七十年圖鑑』昭和12年8月15日 東京日日新聞・大阪毎日新聞社 発行

藤岡家所蔵資料より、万延元年(1860)の遣米使節団を中心に、江戸末期の日本外交の風景をたどります。

使節団の目的の一つが、通貨交換比率の交渉でした。日米和親条約の締結により、日本貨幣と西洋貨幣の交換比率を定める必要がありました。幕府は日本における本位貨幣「金」を基準にして交換率設定を主張し、ハリスは当時の国際決済の標準通貨がメキシコドル銀貨であったため、銀を基準にすることを主張します。結局、幕府は米国側に押し切れられ、銀含有率を基に1ドル=3分の交換比率を承諾しましたが、このことは日本の金が安くなったことを意味し、大量の金が海外へ流出することとなります。これらを防止するため、一分銀が国際決済に不向きであることを諸外国に認めてもらうため、一行の一人、小栗忠順はフィラデルフィアの造幣局で貨幣の分析をさせ、含有量に不平等があることを認めさせます。が、交換比率を是正する合意には至りませんでした。しかし小栗は tough negotiator(交渉力のある交渉相手)という高い評価を受けています。また、初めて日の丸を掲げた国際外交の舞台上、日本使節団の態度は、各方面で高い評価を受けたことが新聞記事から読みとれます。

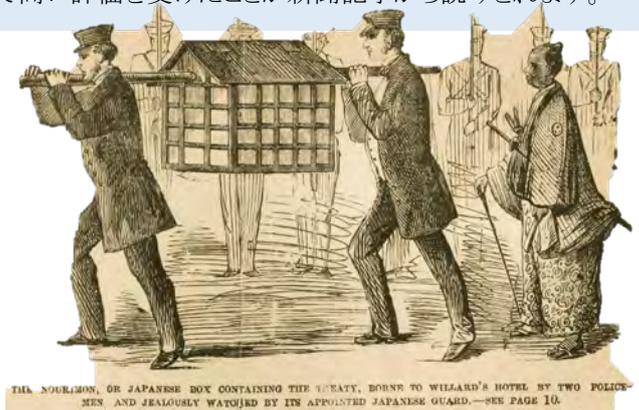
「第一回遣米日本使節団」

万延元年(1860)幕府は「安政江戸条約」批准書交換のため、正使新見豊前守、副使村垣淡路守、小栗豊後守の一行を米国に送った。同使節こそわが国最初の特使である。

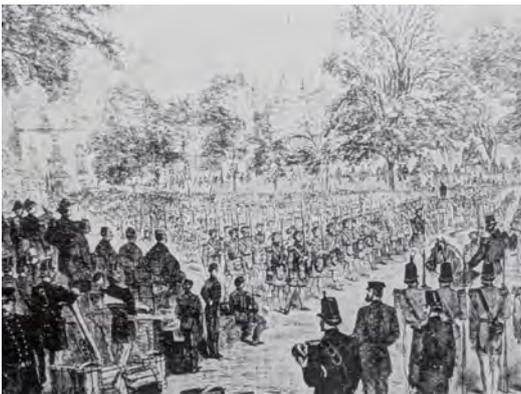
一行は同年正月十九日米艦ボウハタン号に投じ横浜を出発。同年二月廿六日桑港(サンフランシスコ港)に到着した。

この時幕府は使節警護を兼ね遠洋練習のため軍艦咸臨丸を同行させた。

同艦には軍艦奉行木村撰津守。勝倫太郎、福沢諭吉などが乗込んだ。使節一行はホワイト・ハウスにおいて大統領ブキャナンに謁見。各地を歴訪非常な歓迎をうけたのち、五月十三日ニューヨーク発、ナイヤガラ号に搭乗、喜望峰を経て九月廿八日品川に着した。『秘録 維新七十年図鑑』より



ワシントンに到着した後、条約の批准書は二人の警察官によって ウィラードホテルまで運ばれた。後ろから日本人の番人が覗んでいる。



左上)ニューヨークにおける新見の使節一行歓迎閲兵式
上)ワシントン海軍工廠における新見使節一行 前列向かって右より 小栗豊後守、新見備前守、村垣淡路守
(万延元年4月5日。西暦1865年5月24日)
文部省維新資料編纂局蔵『秘録 維新七十年図鑑』
右)万延元年日米施設圖繪」アメリカ合衆国大統領による日本使節の歓迎。ワシントンホワイトハウスにて

